

(4) 空港へのアクセスについて

想定課題

国会等移転審議会の答申では、福島空港の活用を前提として栃木・福島地域が移転先候補地とされたが、成田や福島空港へのアクセスはどのように確保するのか。

対応方向

国会等の移転先となる新都市には、国内における政治行政の中心としての役割に加えて、国際政治都市としての役割が求められますが、この役割を果たしていくためには空港の存在が不可欠です。

国会等移転審議会では、移転先候補地の選定を行う過程で、移転先候補地の新都市のイメージを描いていますが、栃木・福島地域においては、那須地域に国会都市を想定し、福島空港を空の玄関口として位置付け、国会都市と福島空港とのアクセス性をより高めるために、東北新幹線から分岐する「新しい鉄軌道」整備の方向を示しています。

福島空港の活用とアクセス強化という国会等移転審議会の考え方は、これまでの県の考え方と合致するものですが、那須地域から福島空港へのアクセスは、東北縦貫自動車道やあぶくま高原道路を利用することにより、現在でも約30分程度であり新都市が国際政治都市としての役割を果たしていく条件は備わっています。さらに、「新しい鉄軌道」を整備することによって、東京、国会都市、福島空港を直結する大量輸送手段が確保できることとなります。また、福島空港は2010年を目途に現在の2,500m滑走路から3,000m級滑走路を有する空港へとその機能拡充を目指しており、第7次空港整備7ヶ年計画においては、利用状況等をみて整備を図る方針が示されるなど、国際空港としての機能強化が期待されます。

一方、海外とのアクセスについて、国会等移転審議会は新東京国際空港（成田空港）の利用が不可欠との考えを示しておりますが、この点については、県の総合計画「とちぎ21世紀プラン」に位置づけられているスカイコリドールを実現することによって、新東京国際空港へのアクセスはもちろん、第7次空港整備7ヶ年計画で民間共用化の方針が示されている百里飛行場へのアクセスをも強化することが可能であると考えます。

なお、県内での新たな空港の整備については、その必要性を含め、長期的な視点から検討していくことも必要であると思われれます。

スカイコリドール

地域間の連携・交流を進める「国土交流拠点とちぎ整備構想」の一部。スカイコリドール（国際連結軸、コリドールは地域の連なり）として（首都圏中央連絡自動車道や鬼怒テクノ通り等を活用）成田、つくば、宇都宮、日光が直結され、さらに、宇都宮から福島空港へと結ばれ、最新の科学技術や産業、文化、観光の国際的な連携・交流が展開される。

